



＜募集要項＞

【募集期間】

平成28年11月25日（金）
～ 平成28年12月22日（木）まで

【受付】

内閣府 政策統括官（防災担当担当）

【事業の目的】

災害に備えられる日本を作ることと目的とした「防災4.0」に沿った、災害時の課題を解決する持続可能性の高い民間企業等による事業アイデアを内閣府（防災担当）が募集するもの。
テーマ：「災害発生から復興までの様々なフェーズで生じる課題を解決する事業アイデア」

※想定される事業例）

- 避難所運営に資するツールの開発(情報集約・物流など)
 - 避難所以外への避難者等の把握ツールの開発(車中泊を含め、指定避難所以外の把握)
 - 高齢者や外国人にも配慮した防災アプリの開発(情報の伝達)
- 上記に限らず「平時-災害発生-復旧」の幅広いフェーズで想定される課題を解決するアイデア・事業提案を募集致します。

【要件】

「従来の行政的な対応を超え、業種ごとの枠組みを融合すること」を主眼に置き、以下の何れかの要件を満たす事業。

- ビックデータやAIなど最新のICT技術の活用
- 業種間連携による今まで活用できていなかったデータの活用
- 国や自治体保有データの活用

※なお全ての要件を満たす必要はありません。

主に他社や政府が保有するデータ、情報、システムなどとの連携やAI、ビックデータの活用により新たな解決策を提案いただくものが対象です

【応募対象者】

企業、研究機関等、法人格を持つ主体

※大学法人(国立大学法人及び私立大学(学校法人))のお申込みも可能ですが対象が「事業アイデア」であるため、企業との連携など、実現可能な体制が整っている必要があります。

【審査等について】

本件はコンテストではありませんので、審査後の表彰・賞品等は予定しておりません。

【ヒアリングについて】

ご応募いただきました内容を内閣府（防災担当）で審査後、必要に応じてヒアリングを実施致します。
※全ての応募についてヒアリングするものではありません。
（期間：資料提出日～1月27日（金））

【提出物】

次ページ以降の様式に沿って以下の3点を記載しPDFに変換の上、ご提出下さい。

- 1.企業情報
- 2.アイデア概要、概要ビジュアル(A4サイズ：2～3枚以内)
- 3.ヒアリング希望日

【提出先】

Email : bousai-apply@hackcamp.jp

【個人情報の取扱いについて】

- 利用及び提供の範囲：
内閣府では、法令に基づく開示要請があった場合、不正アクセス、脅迫等の違法行為があった場合その他特別の理由のある場合を除き、収集した情報を本事業の目的以外のために自ら利用し、又は第三者に提供いたしません。
また、個人情報を利用する場合、個人情報保護の重要性を強く認識し、当該個人情報の利用目的の範囲内でこれを行います。
- 安全確保の措置：
内閣府は、情報収集に際しては、収集した情報を適切に管理し、漏えいや滅失又はき損のないよう、必要な措置を講じます。
また、内閣府が保有する個人情報の全部又は一部を第三者に処理等を委託する場合には、内閣府同様適正な管理を行うよう、必要な監督等に努めます。

【問い合わせ先】

内閣府「『防災4.0』遂行作戦」本部
（事務局 株式会社HackCamp）
TEL：03-5826-4365（担当：青木）
電話受付時間 10:00-18:00/月～金（土日祝日を除く）
Email：bousai-info@hackcamp.jp

1.企業情報

企業名	NPO法人クライシスマッパーズ・ジャパン		
代表者名	理事長 古橋 大地		
担当者名	中尾 浩子		
担当者部署	事務局	役職	秘書
Mail（担当者）	info@crisismappers.jp		
TEL（担当者）	042-759-6063		
住所（企業）	〒252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺5-10-1 青山学院大学 相模原キャンパス B棟7F B720		
HP等（URL）	http://crisismappers.jp		

3.ヒアリング希望日

第1希望	1/24(火)
第2希望	1/25(水)
第3希望	

資料提出日～2017年1月27日の期間で希望する日付と日時をご記入下さい。
ご提出後、内閣府（防災担当）において審査を行いますので、全てのご応募について
ヒアリングを実施するものではありません。

2.アイデア概要

解決を目指す課題	被災地の様子がわからない。どこで何が起きているのかがわからない。
タイトル	災害ドローン救援隊 DRONE BIRD
概要	<p>自然災害や政治的暴動などが起きた際に、被災状況を詳細かつ迅速に取得できる最新鋭ドローンを現地で飛ばし、航空写真をインターネット上で共有。世界中のボランティアマッパーによるクラウドソーシング地図作り作業を行うことで、被災状況をマップ上に反映し、人命救助や支援活動のサポートを行います。この最新鋭のドローンを正確に操縦できるパイロットを、市民の中から育成する計画を立ち上げました。それが災害ドローン救援隊「DRONE BIRD」です。</p> <p>我々の目標は、発災2時間後には被災地の地図更新がはじまることです。</p>
活用する技術 又はデータ	ドローン、クラウドソーシング、 OpenStreetMap

(※) 文字量の目安は、本ページにおさまること（文字やフレームの大きさは変更可）



災害ドローン救援隊

DRONE BIRD

空から見守る。みんなで見守る。

緊急時の市民発、

災害ドローン救援隊「DRONE BIRD」

自然災害や政治的暴動などが起きた際に、被災状況を詳細かつ迅速に取得できる最新鋭ドローンを現地に送り、現地の災害状況をマップ上に反映し、人命救助や支援活動のサポートを行います。最新鋭のドローンを正確に操縦できるパイロットを、市民の中から育成する計画を立ち上げました。それが災害ドローン救援隊「DRONE BIRD」です。



ハイチ地震前 @OpenStreetMap, CC-BY



ハイチ地震後 @OpenStreetMap, DDOL

一刻も早く、現地の救援活動をスタートするためには、一刻も早く、正確な地図をつくる必要があります。

我々マッパーは、被災地で撮影された写真を元に、世界でもっとも詳細で最新の「現地の被災状況マップ」をつくる非営利のチーム。国連や赤十字などの救援活動のために必要な情報支援として参画したり、2010年1月のハイチ地震、2011年3月の東日本大震災、2015年4月のネパール地震など多くの災害で、世界中のボランティアマッパーたちが現地やネット上に集まり、震災後の正確な地図をつくりました。

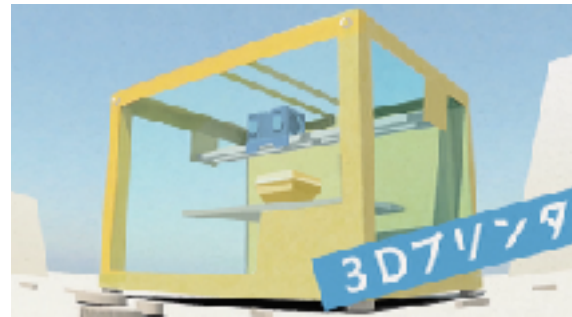
dronebird.org

ドローンバードパイロット



万が一、人や建物に当たっても被害のない、小型軽量、最先端の無人飛行機が、現場に急行して空撮します。

ドローンバード開発部隊



撮影中に壊れたパーツや、新たに設計されたドローンを将来的に自分たちの力で作ることを計画しています。3Dプリンタやレーザー加工機など最新のデジタルファブリケーション機器でそれを実現します。

クライシスマッピング部隊



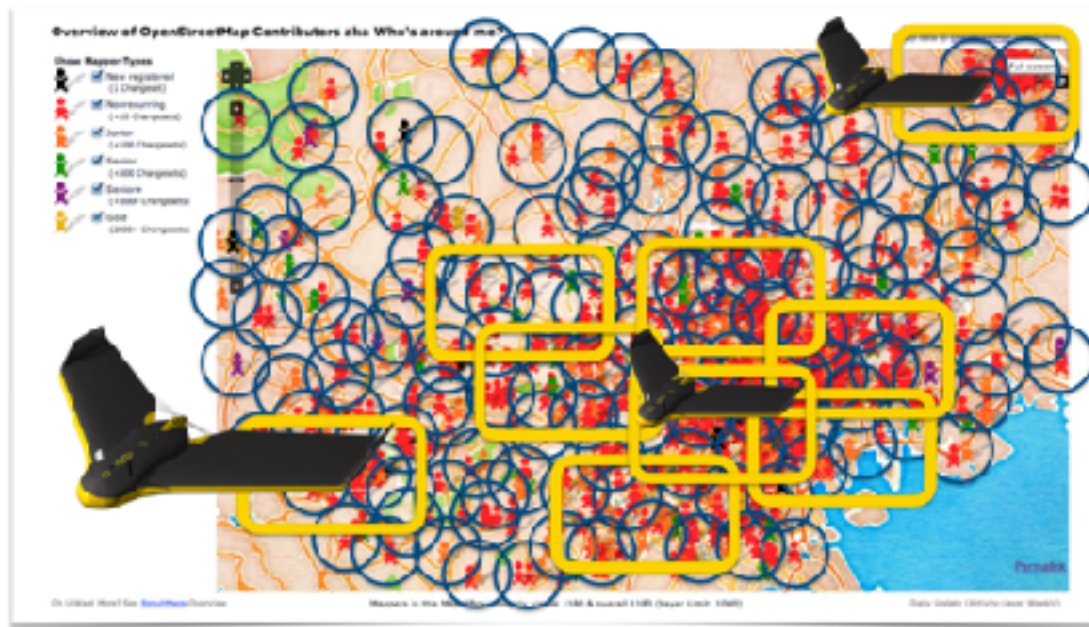
現場に急行したドローンが送ってきた画像を元に最新の状況を地図に反映。この地図は、関係各所を含め世界中にネット配信されるほか、紙地図として自由に印刷し、誰にでも配ることができます。

ドローンバード基地

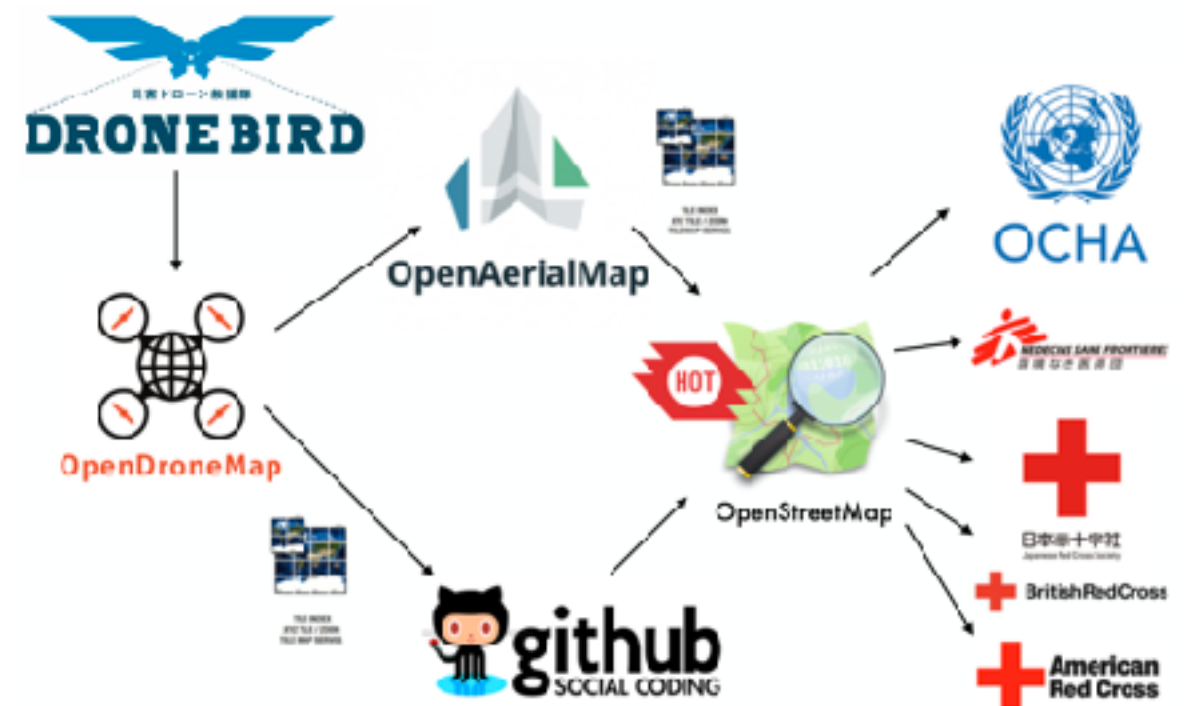


ドローンバードパイロット、ドローンバード開発部隊、クライシスマッピング部隊。それぞれのメンバーが日々その技術を磨き、自然災害の多い日本やアジア太平洋地域に、いざというときに機能するドローンバードの基地をつくります。

Active mappers in Tokyo area



首都圏における空撮カバーエリアのイメージ



空撮からマッピングに至る作業フロー図

発災後 1 時間以内にドローンが航空写真を空撮、発災 2 時間後には地図更新開始が我々のゴール！



空撮したデータの公開例（OpenAerialMap）



発災後の航空写真からマッピングする例（OpenStreetMap）

みんなで作る、新しい共助の仕組み

関連する組織との連携を積極的に推進中

- ・ 地方自治体との事前の防災協定： 神奈川県大和市、埼玉県横瀬町 等
- ・ 人材育成と教育： 青山学院、首都大学東京 等
- ・ 災害時の情報連携： IT-DART, 減災インフォ, 災害IT支援ネット 等
- ・ 平時の災害対応訓練： Project 72, すごい災害訓練DECO 等
- ・ 防災啓蒙活動： 防災ガール、みんなの防災+ソナエ、ぼうさいモーターショー 等

